

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸域生態系 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> コガタハナサキガエルについて「(事業実施区域内の) ゴルフ場内での確認はできなかった」とされているが、資料-196頁-表6.9.1(2)の両生類出現リストでは、平成15年度ハナサキガエル類調査において、ゴルフ場内で確認されたとある、また、平成13年度、平成14年度調査においても事業実施区域内で確認されたとあることから、事業実施区域内に生息しているとも読みとれる。 	<p>資-196の表-6.9.1(2)両生類出現種リストの平成15年度枠内の「ハナサキガエル類調査 ゴルフ場内●」はプリントミスであり削除いたします。ただし、平成13年度、平成14年度については生息していた事実はあるものの、その後の調査では卵や幼生の確認はなされておらず、変則的な分布をしていたものと考えています。</p> <p>しかしながら、オオハナサキガエルの繁殖は確認されていることから、事業実施区域内に生息するハナサキガエル類については環境保全措置の対象とし、近隣好適地またはビオトープの創出を検討し、個体群の存続を図ってまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ハナサキガエル類の生息地が消失する、その生物種を取り囲む生物的・無機的環境全てを保全する必要がある。 ハナサキガエル類(コガタハナサキガエル)は西表島と石垣島の名蔵川にしかいない希少なカエルですが、好適地への移動とありますが、好適地などないのではないですか。また、ビオトープの創出とありますが流水域に生息する種は難しく回避を考えるべきです。絶滅してしまえば取り返しが付きません。 	<p>ゴルフ場内のハナサキガエル類の生息地は、人工的に下流側にある井戸からくみ上げた地下水を、上流側の池を経由して流下させているものです。工事初年度にくみ上げが停止されるため、生息地への水の供給が停止し、産卵場、幼生の生息場所の消失、成体の生息環境の消失が起こり、工事初年度にゴルフ場内のハナサキガエル類生息地は消失するものと予測されます。</p> <p>その代償措置として、準備書p7-43に示すとおり、近傍河川への移動、或いはビオトープの創出を検討しておりますが、準備書p7-42、p6-12-92~135に示す生息環境の詳細な調査結果に基づき、移植先の生息環境の創出を行ってまいります。</p> <p>なお、移植の手法については、モニタリング委員会で個体群の存続が図れるよう具体的な計画について検討を行います。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 準備書ではD洞窟は改変区域から最短距離で約50mと記載されている。しかしD洞窟が新たに発見された当時、20mという話であった。一体どちらが本当なのか。洞窟測量が行われているなら洞窟の位置を落とした平面図を公表すべき。 「A洞窟の最奥部は滑走路の中心から約170m離れている」と記載されている。しかしA洞窟の最奥部は滑走路の中心からは約120mしかない。準備書の記述を修正すべきである。 	<p>準備書では、平成15年度までの調査結果をとりまとめ、記載しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 個体群全体あるいは生活史全体を見据えた評価は調査にも時間がかかることが予想されるが、少なくとも希少種、あるいは八重山の固有種については他に替え難いものであるため、ある程度の把握をしておくことが必要。 	<p>石垣島全体の生息状況については文献等により把握し、個体群の存続に目標をおいて環境保全措置を検討しました。土地改変に係る影響については、種ごとに県内及び島内の生息状況を文献により把握し、また、事業実施区域周辺における生息、生育状況を調査結果から把握し、個体の消失が事業実施区域周辺の個体群の存続に及ぼす影響について予測を行いました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> D洞窟は滑走路近くまで伸びているが、空港敷地内に当たる空洞部分についてはコウモリ調査が十分に行われていない。3000個体いたカグラが2003年1月に観測されなかったのは調査圧のためにこの最奥部の空洞部分に避難した可能性もある。D洞窟最奥部のコウモリ類の生息調査をするべき。 	<p>D洞窟につきましては、2003年1月はカグラコウモリの利用が観察されませんでした。調査圧により一時的に他の洞窟へ避難したためであると推察され、この時期C洞窟で約800個体、A洞窟で約250個体が観察されており、D洞窟を利用していた個体の一部が移動したものと考えられました。</p>